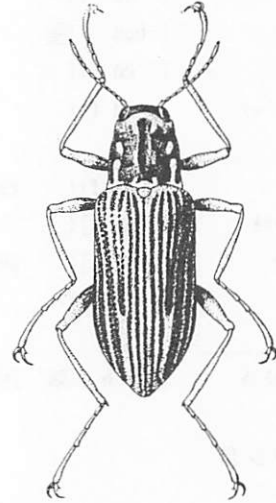


アヤスジミゾドロムシ氷上郡柏原に産す*

高橋寿郎

筆者は本誌上に”兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(1)”なる拙報を発表させて頂いた(Vol.23, No.2, 1995). ところで, この拙報を読まれた山本義丸氏からお手紙を頂いた(1995年11月28日付).

それによると拙報で取り上げた1952年発表の山本義丸氏の報文”兵庫県(丹波国)氷上郡より記録する水棲甲虫”の中でキアシホソドロムシがよくわからないと記したことに関連して, 当時氷上郡の水棲甲虫の多くは神谷一男・中根猛彦両博士に同定を依頼しておられ, このキアシホソドロムシはその後山本氏が発表になった”兵庫県氷上郡昆虫目録”(1958)の中で言及(p.83)しているように, このドロムシを神谷一男博士はキアシホソドロムシ *Stenelmis yamamotoi* Kamiya として記載の予定とされていたのであるが, 神谷博士の逝去により実現せず, そのままになってしまっている. 誰か他の人によって記載命名されていると思われるが, 手許にその時の標本の一部が若干あるが進呈するといつて 5exs.(Kaibara, Hiogo l. IX. 1949, Y. Yamamoto leg. 3exs., 不完全品. カビがどれにも生えていた)送って来られた. はたして何というドロムシなのか筆者も全く門外漢のグループであるし, 一寸わからなくどなたか専門の方に同定を依頼しなくてはと考えたが, かなり特徴的にハッキリした形態を有しているので, 或いは名前がわかるかもと手許に所有している貧弱な文献を調べているうちに, これはアヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958) と同定すべきではないかということになった. 全国での記録がよくわからないが, 佐藤正孝博士によると稀種になるようであるが, 一方氷上郡では当時かなり採集されたようなので(現在いるかどうか疑問), 此処に兵庫県産のドロムシとして記録すると共に



Graphelmis shirahatai (Nomura, 1958)
アヤスジミゾドロムシ (T. Sekiguchi del.)
Entom. Rev. Japan 9(2), pl. 8, 1958 より

この虫についての若干の説明をさせて頂きたいと思う.

浅学未熟の筆者のこと故, 大きな誤りをしているかもしれないが御教示, 御指摘頂ければ幸いです.

本種は故野村 鎮氏によって記載された種で, 白畑孝太郎氏が山形県 Jimmachi (神町) で採集された 1 ♀ をタイプとして, *Stenelmis shirahatai* Nomura なる学名で記載(当初和名はナシ), パラタイプに山形県山形市産の 1 ex. (採集者 長谷川氏) がふくまれていた. 原記載には故関口俊雄画伯による美しい全形図(体長 3.3mm)がプレートとしてついていてこのドロムシの特徴もよくわかる. 記載はかなり詳しい記述である. 野村氏は1963年にはカラーで図説(このとき初めてアヤスジミゾドロムシなる和名を使用), ”前胸背には基部の2縦隆の前方に小瘤があり, 上翅の第1点刻条は基部

*兵庫県甲虫相資料・318

で2又せず、第5間室も隆起しない。7~8月。分布、本州。体長、3.3mm”とその特徴を記している。

1977年には佐藤正孝博士がヒメドロムシ科の日本産の目録を発表、その中で原記載での *Stenelmis* 属から *Graphelmis* 属の種として取扱っている。

1985年には、同じく佐藤博士がカラーで図説、その中で”3.4-3.7mm。触角の第11節は前2節を合わせたものほぼ同じ長さ。上翅はやや長い細毛を装い、第4と第5点刻は中央で合一する。まれ。本州”と記されている。

以上の図説並びに記載によるそれぞれの特徴などの点から(送られてきた標本の体長は3.4mmであった)、山本義丸氏がわざわざ送ってこられたドロムシはアヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958) と同定した次第である。

せっかく神谷博士が *Stenelmis yamamotoi* Kamiya キアシノドロムシとして記載発表されようと予定しておられたのに残念な結果になってしまった次第である。ただこの *G. shirahatai* の方も非常に稀な種のように、勿論筆者の貧弱な所有文献からは他の産地の記録が見出されず佐藤博士もまれであると記されているように、現在山形県以外の産地が知られていないのではないかと考えられている。ただ初めに記したように山本氏が採集さ

れた時は、かなりの個体を採集しておられるようで、このドロムシが兵庫県下からの初記録になると同時に、現在はたして県下の他の地域での産地が無いのかどうか調べてみる必要があるように思われる。どちらにしてもこの大変珍しいそして興味あるドロムシが、兵庫県下から記録出来たことはうれしいことで、この機会を与えて下さった山本義丸氏に厚く御礼を申し上げさせて頂きたいと思っている。

<参考文献>

- S.Nomura (1958) Drei neue *Stenelmis*-Arten aus Japan (Coleoptera, Elmidae)
Entom. Rev. Japan 9(2):41-45, pl.8.
野村 鑽(1963) 原色昆虫大図鑑 第2巻(甲虫篇) pl.73, f.7, p.415. (北隆館・東京)
M.Sato (1977) 日本産甲虫目録 No.9 ヒメドロムシ科 p.3 (甲虫談話会・東京)
佐藤正孝(1985) 原色日本甲虫図鑑(II)
pl.80, f.9, p.437. (保育社・大阪)
佐藤正孝(1989) 日本産昆虫総目録 I (p.318)
(九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集出版。九州)
(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

フタイロカミキリモドキの分布*

高橋寿郎

姫路昆虫同好会結成20周年記念特別号会誌”遊蟲千年”(XI.1995)誌上に赤穂市坂越湾に浮かぶ小島である生島に、相坂耕作氏他3氏が訪問、この島の昆虫調査をされた報文が発表されていた。

時間的制約があったのか調査というところまでにはいたっていないと思うが、初めて原生林の同

島の昆虫相の一端がわかったことは大変貴重であると共にうれしいことである。今回の記録の中で、フタイロカミキリモドキ *Oedemeronia sexualis* (Marseul, 1876) がある。この種は南方系の種であり、兵庫県下での記録は3例目である。ところで、この種の分布というのは今まで日本にて発表されている代表的な図鑑目録を見てみると(河野広道,1950. 中根猛彦,1956,1963. 宮武睦夫,1985. 佐藤正孝,1989)、どれも申し合わせたようにこの種の分布は四国、九州、対馬、五島列島、屋久島、トカラ諸島、奄美大島、沖縄、石垣島、西表島、与那国島となっていて、本州での分布というのは

*兵庫県甲虫相資料・319